

人 望

奈良県

郡山剣道クラブ

小学5年 原 田 一 路

ぼくには宝物があります。一枚の面タオルです。絶対に洗いません。絶対に使いません。そう決めてから五年以上が経ちました。

ぼくは、出産の時のトラブルで仮死そして胎便吸引症候群になり、生まれてしばらくの間、人工呼吸器で命をつながないといけないほど、肺が弱い状態でした。この先を心配した両親は、肺が強くなってほしいと、水泳を習わせようと考えていたそうです。でも、あるテレビドラマからぼくが剣道に興味を持ったため、「思ってたのと違う。」と、ぎょう天したのだと両親から聞きました。さらに、今となっては失礼なことですが、母が言うには、ぼくがやりたいと思ったことを応援したい気持ちと、実際に剣道を見たら、頭を叩かれるのが嫌だとか、音が怖いなどの理由であきらめるかもという気持ちを半分ずつ持ちながら、道場へ見学に行ったようです。その場でぼくが先生に「剣道をやりたいです。」と即答した時には、横にいた母が少したじろいでいたのをうっすらと覚えています。

ぼくがあの時即答した理由は、本当に剣道をやりたいという気持ちがあっただけではなく、一人のお兄さんの姿がかがやいていたというのもありました。その姿は今でもはっきりと覚えています。そのお兄さんは、その時小学六年生になったばかりでした。何も分からないなりに、この人が小学生の中で一番強い人なのかなと自然と感じるほどのオーラと、号令をかける少し低めの声が、ぼくにはとてもかっこよく映ったのです。

実は、ぼくには十年ほど憧れているスターがいます。元大相撲力士で、横綱を十四年も務めあげた人です。知らない国にやって来て、大横綱になるまでの血のにじむような努力と心の強さが、本当にすごい人なのです。元横綱の本やインタビューで「土俵の上では厳しく、土俵を降りたら優しい人に。」という言葉がありました。このお兄さんもそうなのです。稽古の時は、下級生や同級生にもあかん事はあかんと言えてきて、真面目で自分にも厳しい人です。そして稽古が終わると、自分から皆に笑顔で声をかけに行って、メリハリをつけている人です。また、しっかり周りを見ていて、この子困っているなと瞬時に判断して、さり気なくサポートできる人です。本当にかっこいいのです。

剣道をもっと知りたいと、ぼくは自分の稽古が終わった後、そのまま帰らずに、上級生の稽古をよく見学しました。お兄さんはそんな時いつも「えらいな。がんばれよ。」と頭をなでてくれました。ぼくが初めて出場した大きな試合では、出番直前のぼくの所まで一人でわざわざ来て、緊張をほぐしてくれました。今も変わらず、ぼくの剣道の悪いクセをよく見て教えてくださっています。お兄さんは覚えているか分かりませんが、小学校卒業時にぼくにプレゼントを渡してくれました。「一路くん、郡山剣道クラブで一番大きな声出

してがんばれ！大貴」というメッセージが書かれた面タオルです。嬉しくて、そのメッセージが消えないように、面タオルが汚れないように、洗わない・使わないと決めました。ぼくの御守りです。

元横綱や大貴先輩と同じことがどこまで出来るかは分からないけれど、ぼくは厳しさや優しさを持ち、真面目にコツコツ取り組んで、少しでも仲間から頼りにしてもらえるようになりたいと思います。自分をふるいたたせるため、そして少しでも周りを盛り上げたいという思いで、誰にも負けないくらい大きな声を出して稽古をしています。たまには、同級生間でぼくから音頭をとって一緒に竹刀を振ったり、がんばろうなと声をかけたりしています。それでもまだまだ細やかな事に気づかない時もたくさんあるので、今の自分はどうかのだと時々自分と向きあって、剣道も己もみがいていきます。